

滋賀県文化審議会次世代育成部会第 11 回会議の概要

1. 開催日時

平成 28 年 12 月 16 日（金）14:00～16:00 大津合同庁舎 7D 会議室

2. 議 題

- (1) 部会長の選出について
 - ・委員の互選により辻委員を部会長に選任。
- (2) 次世代育成施策の実施状況について
- (3) 県立文化施設における次世代育成施策の実施状況について
- (4) その他

3. 主な意見

議題(2) 次世代育成施策の実施状況について

議題(3) 県立文化施設における次世代育成施策の実施状況について

(1) ホールの子事業について

ア 参加状況について

- ホールの子事業は、高島や湖北の小学校の参加が少ないように思うが、これに対する対策が必要。
- 遠方だけでなく、大津の小学校も参加しているのか。実績の 112 校は、県内の小学校数の半分では。
- 実際にホールの子事業で生のオーケストラに接すると、是非、子どもたちを連れていきたいと思った。校長先生や先生が聞いたことがないというのが 1 番の問題で、まずは、校長先生や先生にびわ湖ホールに来て生のオーケストラに感動してもらって、子どもたちに聞かせてやりたいと思ってもらいたい。
- 昔、オーケストラを聞いたときと違って、本当に楽しく子どもたちが楽しめるようなプログラムになっている。是非、参加率が 100% になるように、努力していただきたい。
- びわ湖ホールから遠い所は、びわ湖ホールの学校巡回公演を利用したらどうか。

イ 内容について

- 昔の音楽鑑賞会のようにじっとしていなくてはいけないこともないし、「みんな歌おう」とか「手拍子しよう」といったようなムード作りも上手い。
- 知識を学ぶことも大事だが、感性を磨くということで、本物の演奏を聞く。何年も積み重ねてきたので、プログラムの質は高くなっている。やる側がこなれてきた。のせるのが上手。みんな、のってくるのがわかった。
- 普段の授業も大事だと思うが、素晴らしいホールを活かしたプログラムというのは、全

国に発信出来るのではないかな。

ウ 効果について

- 芸術に対する感動の他に、ああいう会場でのマナーも醸成されている。あまり触れられていないが非常に重要ではないかなと思う。そういうところも成果として挙げていくべきである。
- 先生が「静かに！動かないように！」と指示されてたが、始まったらみんな一生懸命に演奏会を聞いていて、やはり子どもたちが吸い込まれていくみたいなものがあるのだと思った。
- 滋賀次世代文化芸術センターでは、美ココロ・パートナーシップ事業において、びわ湖ホールを利用している。不登校の子ども達も、こういう機会だと来る。子どもたちが変わる瞬間があるが、それを校長先生や先生に見てもらいたい。

(2) 滋賀次世代文化芸術センターについて

- どのように子どもたちに体験させるのか。来てもらえないのなら、こちらから出掛けて行こうというのがこの仕組み。
- 芸術家が学校に来るという仕掛けで、鑑賞教育だけではなく、制作体験もプログラムの中に組み込んでやっている。
- 小学校、適応指導教室、不登校授業をしている教室、最近では、不登校児童の家まで行っている。さらに、講師となる美ココロ・パートナーの育成もやっている。
- 美ココロ・パートナーシップ事業は、実施人数は少ないが成果が上がっている。

(3) 次世代文化賞について

- 美術、音楽だけでなく幅を広げてということだが、その方法が難しい。いわゆる本当の意味でのアートフィールドで頑張っている若手を見つけることは、大きな課題である。
- 推薦を個人に依頼したらどうか。各分野のキーになる人や分野ごとの新しい芽を見つける視点を持った人から推薦をしてもらわないと。
- キーマンというと偏りというか派閥的なもの出て来るので気になる。偏りが強くなるのではないかな。
- 出来るだけ広く知ってる人に選んでもらう、推薦してもらおうというのが1番良い。京都では過去の受賞者から何人かを推薦してもらっている。

(4) 次世代フェスティバル

- 若手には活動する場がなかなかない。出身である滋賀県で活動の場を与えられるのは大変嬉しいので、是非、続けていって欲しい。
- 若手ということや斬新な新しい力が出てくることが、「びわこ☆アートフェスティバル」という名前では感じられない。悪い名前ではないが、次世代の育成が目的なので、それを打ち出す必要がある。正式名称はこれで良いが、キャッチフレーズがあれば良い。

(5) 次世代文化賞受賞者展について

- 程度が高く密度の濃い展覧会だった。美術館なら、ギャラリーでもお互いが競い合う。そういうチャンスを出来るだけ与えれば、美術館や作家の広報にもなるので、是非、続けてほしい。

(6) アートにどぼんについて

- 来年度、美術館で出来ないがどこかでやって欲しい。例えば、新しくなった大津駅前の広場など、出来るだけ人が集まる場所でやると、美術館もアピール出来る。徐々に、商店街や県庁の方へも広げていけばどうか。

(7) 学校にアートがやってきたについて

- 事業を実施した学校に行って、校長先生と話をしたが、普段、学校だけでは出来ないようなダイナミックなことができ、学校に来ていただけるのは大変ありがたいとおっしゃっていた。27年度は2校だけだったので、もっと増やして欲しい。
- 芸術家は専門的な分野で話をし、学校には、学習指導要領に則ったカリキュラムがあり、それぞれ持っている良さがあるので、事前にすり合わせをしながら、折り合いのつく所を見つけおく必要がある。

(8) ボランティアについて

- ボランティアの人数が少ないので、この裾野を広げていく必要がある。

(9) びわ湖ホールの事業について

- オペラは総合芸術で、歌、バレエ、劇がある。びわ湖ホールは、オペラを広めるために出来たホールで、子ども達に小さい頃からオペラを見てもらいたいので、子ども達でホールをいっぱいするために何か工夫が必要では。

(10) 近代美術館の休館について

- 次年度から近代美術館は休館するが、学芸員はアウトリーチ活動を中心に行うのか。
- 仮設展示等はしないのか。

(11) アートマネジメント講座について

- アートマネジメント講座を受講しても活躍する場がない。展覧会を企画する等、一連の作業をすることで、実践を踏んで行く必要がある。
- サポーターもいわゆるお手伝いではなくもっと幅を広げて、色々な分野で働ける機会を作る必要がある。
- インターンシップ制度として各施設が導入すると単位として認定できる大学もあるので、大学生が参加しやすくなる。インターンシップとは別にプログラムがあると、学生が参加しにくい。

(12) 若手芸術家の育成について

- 子どもたちにとって若手芸術家は、年齢も近く大変親しみやすい。若手芸術家が、制作

に関して、学校に来てもらえるなら、学校現場としては大変ありがたく、担任がやるより専門的なので子どもたちも凄く変わる。

(13) 広報活動について

- 多くの事業をやっているので、今年度はこれに絞ったとかメリハリをつけても良い。広報活動もそこに集中的にやることで効果が出る。
- 例えば、JR の駅でデジタルサイネージを使ってアピール出来るのではないかな。
- チラシを学校に置いておくだけでは取らないので、例えば、1つの事業だけでも、すべての保護者に配れば、興味のある人は、行くのでは。おそらく、知らないということが現実にある。
- 広報活動の戦略を重点的に考えていただきたい。項目だけでもかまわないので。それによって違った効果が出てくる。

(14) その他

田んぼ体験について

- 滋賀県は伝統芸能では国内有数の県だ。田んぼ体験だが、単に田植えだけを体験するだけではなく、稲を植える前に豊作を願う行事や、終わった時の感謝の行事。そういう一連の行事も体験したらどうか。

表舞台と裏方について

- 表舞台の企画が多いようだが、舞台が始まる前にリハーサルの場面を見て、裏方に非常に興味を持った。例えば、照明の技術。レバー1つで朝から夜に切り替える。そういう裏方の仕事を見ることによって、表舞台が分かる。それによって表舞台に関心を持ち感動を覚える。
- 文化は、表舞台の人だけではなく、裏方も文化に対して貢献している。必ずしも表舞台だけではない。そのことが県内の若い世代に広がると、幅が広い文化が出来上がってくると感じた。

絵本について

- 子どもが最初に触れる芸術の1つは絵本なので、絵本という切り口であるとか絵本の原画展等があれば、親が文化に興味がなくても入りやすい。